

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

**【めざす学校像】児童生徒一人ひとりの「自立と自己実現」に向けて教育実践するとともに、地域社会に対しても「多様性社会の実現」を推進できる学校**

\* その実現のために、《チーム光陽！つたえる・分かち合う・つながる》を合言葉に、以下の4点について連動させて取り組み、「好循環な学校」を作る。

1. **【基礎】** 安全安心な校内体制構築の実現。～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校～
2. **【実践】** 質の高い授業実践の実現。～主体的な学びを大切に、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた質の高い授業実践ができる学校～
3. **【組織】** 質の高い教員集団の実現。～学校組織として支援教育の専門性を高め、一人ひとりの教職員が学び続け、チームで協働できる学校～
4. **【発信】** 多様性社会の推進と実現。～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、すべての人が自分らしく生きていく社会の実現に向けて使命が発揮できる学校～

## 2 中期的目標

**● 「学校経営推進費」を受けた年度(R3)【事業名】「光陽 GoGo プロジェクト～未来の扉を自分で開こう！～」**

\* 導入機器→「スパイダー」「ベビーロコ」「スノーズレン関連機器」「SDGs 関連取組の陶芸・七宝焼道具」等。

**1.【基礎】安全安心な校内体制構築の実現(安全安心力の向上)～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校～**

- (1)「学校生活のあらゆる場面で児童生徒・教職員の人権が尊重される学校」を実践・実現するため、「人権尊重の教育」を推進する。(取組重点)
- (2)すべての児童生徒の「心身の健康」を守り、すべての児童生徒・保護者・教職員にとって「安全安心な医療的ケア実施体制」を構築する。
  - ・すべての児童生徒の「心身の健康」を守るために組織として報告・連絡・相談・連携等の体制を維持する。新型コロナウイルス感染症等の感染症対策を継続実施する。
  - ・人工呼吸器の管理等、高度な医療的ケアも含めたすべての医療的ケアが、安全安心に行えるための環境整備を行い、校内体制を構築していく。
- (3)学校における「危機管理体制」を強化し、事故・事案の未然防止に努める。また、万が一発生した時には、児童生徒・保護者・教職員へのリスクを最低限にとどめる。
  - ・現在ある危機管理関係の手引きを集約・分析し、社会の変化に対応した形で「学校における危機管理の手引き」「業務継続計画(BCP)」等を整理する。
  - ・「大災害発生時」においても児童生徒・教職員の「命を守る」対応ができるように、「大災害対応防災マニュアル」を継続検討し、定期的に訓練を実施する。

**2.【実践】質の高い授業実践の実現(授業実践力の向上)～主体的な学びを大切に、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業実践ができる学校～**

- (1)新学習指導要領を踏まえた学校全体の「教育課程」について、再編成を行う。
  - ・「光陽グランドデザイン」の完成。(R3「めざす児童生徒像」「めざす教職員像」等の確定→R4「各学部教育目標」のつながり等の確定→R5「光陽グランドデザイン」確定)
  - ・「学びの連続性」「キャリア教育」の視点を大切に、「教育課程」の再編成について、「教育課程検討委員会」等が中心となり、検討・作成を進める。
- (2)主体的な学びを大切に授業実践(観点別評価含む)を実現するため「研究授業」や「授業振り返り研修会」「教職員間の授業参観週間」を充実させる。
  - ・定期的に学年・学部で話し合い、授業力向上及び授業改善のための大切な観点を共有し、新たな気づきや学びを「明日からの授業」に活用する。
  - ・各教職員の「経験年数に応じた学び」や「教科等に応じた学び」を充実するために、学部を超えて相互に授業観察ができるシステムを構築する。
- (3)自立活動における専門性の向上を図るための取組を行う。(光陽 GoGo プロジェクトの取組も含む)
  - ・外部人材等を積極的に活用し、初任者や経験年数の少ない教員への指導も含めた「自立活動の専門性の向上」のための取組や検証を行う。
  - ・スパイダー・移動支援機器・スノーズレンや GIGA スクール構想に伴う1人1台のタブレット等 ICT 機器等を積極的に活用し、自立活動の指導の幅を広げ、充実させる。

※上記(3)の取組により、「光陽 GoGo プロジェクト」の「自立活動を中心とした実践」における学校教育自己診断関連質問項目を1年目(R3)・2年目(R4)・3年目(R5)ごとに新設する。各年度の新設項目の肯定的回答率について、教職員・保護者ともに、令和3年度 65%以上(達成済)、令和4年度 70%以上、令和5年度 80%以上とする。  
(R3 教職員 90% 保護者 74%)

**3.【組織】質の高い教員集団の実現(組織力の向上)～学校組織として支援教育の専門性を高め、一人ひとりの教職員が学び続け、チームで協働できる学校～**

- (1)全教職員のスキルアップ研修と次世代育成継承システム(OJT)を充実し、学校組織として支援教育の専門性を高める。
  - ・教職員の研修形態を「全校研修」と経験年数や課題別等の「ニーズ研修」の両輪で展開し、組織として全教職員の専門性向上を実現する。
  - ・学年内での日常的な次世代育成継承システム(OJT)を充実し、全教職員が、「内発的な問題解決発想」を持ち、「なぜ」「何のために」のすり合わせを行っていく。
- (2)組織としての「引継システム」を促進する。
  - ・定期的な「整理整頓」の実行をおこない、校務のスリム化を促進する。
  - ・授業・教材・業務等の各分野での「アーカイブ化」を「教育課程や年間計画」「発達課題」等と関連させて実行し、効率的な授業準備等に活用する。
- (3)教職員が「教職員としての根幹の業務」に専念できるように「教職員の働き方改革」を推進する。
  - ・教職員が心身ともに健康な状態で児童生徒に向き合い指導・支援するために、全ての教職員が自らの責任を果たし、「働きやすい職場環境作り」を促進する。

**4.【発信】多様性社会の推進と実現(発信力の向上)～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、多様性社会の実現に使命が発揮できる学校～**

- (1)「学校間交流」「居住地校交流」等について進化・深化させ、SDGsの視点も取り入れながら、「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進を行う。
  - ・「学校間交流」「居住地校交流」について、双方の学びを社会に発信することで、「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮する。
- (2)「地域に開かれた学校作り」実現のため、保護者・地域住民・地域小中学校・関係機関との協働を推進し、併せて「支援教育のセンター的機能」を発揮する。
  - ・地域住民や民生委員・校区福祉委員会の方々と連携し、「地域の教育力」を活用した授業を展開する中で、お互いが活性化できる取組を工夫する。
  - ・地域支援については、支援教育コーディネーターに加えて校内教職員の専門性を活用し、学校全体で「支援教育のセンター的機能」を発揮する。
- (3)児童生徒・教職員が光陽支援学校の取組・実践・自らの学びを積極的に発信し、「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮する。
  - ・教職員は、自分たちの実践のまとめについて、「わかりやすく伝える力」(プレゼンテーションスキルや言葉の精選等)を強化し、校内外で発表の機会を作り、発信する。
  - ・ホームページ等の充実を図り、何度もアクセスしやすくなる内容・更新ペースを検討し、学校の「見える化」を図る。

※上記(3)の取組により、「光陽 GoGo プロジェクト」の「SDGs 拠点校としての実践・発信」における学校教育自己診断関連質問項目を1年目(R3)・2年目(R4)・3年目(R5)ごとに新設する。各年度の新設項目の肯定的回答率について、教職員・保護者ともに、令和3年度 65%以上(達成済)、令和4年度 70%以上、令和5年度 80%以上とする。  
(R3 教職員 94% 保護者 89%)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<b>【実施期間】</b> 令和4年12月1日(木)～12月12日(月) <b>【対象】</b> 保護者(提出率:肢体部門65%・病弱部門67%)・児童生徒・教職員(提出率:100%) <b>(1)【基礎】安全安心力の向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への関連設問項目「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」「学校は、安全であり、子どもは安心して学校生活を送れている」「防犯・防災に備え、訓練や準備を行っている」等について、94%から99%の肯定的評価があり、児童生徒及び保護者の安心安全のニーズに学校として応えられている結果であった。</li> <li>・また、「教職員は、日常の教育活動において、子どもの人権に配慮した言葉や態度で接している」についての肯定的評価は、92%で、一昨年度生起した人権事案により77%に下がった結果から昨年度・今年度ともに90%超えが維持でき、保護者の安心安全のニーズに対応できた。保護者の皆様にご不安・ご心配をおかけしたことを忘れず、信頼回復に努め、継続して人権尊重の取り組みを進めていく。</li> <li>・教員への関連設問項目「ヒヤリハット・インシデント・アクシデント報告が共有され、再発防止に活かされている」「教員・養護教諭・看護師等が協働し、医療的ケア安全</li> </ul>	<b>【第1回学校運営協議会:令和4年6月29日(水)実施】</b> <<委員より>> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校経営計画」4つの柱の1番「安全安心な校内体制構築の実現(安全安心力の向上)～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校～」について、今回、光陽支援学校の食育・給食の取り組みについて、動画で詳細を見せていただいた。段階食・個食配膳・行事食・ボッチャ応援献立・卒業祝い献立・給食調理員の仕事についての授業連携等、給食の取り組みについて感心しながら映像を見せてもらった。給食は、安心安全につながる一番の取り組みであると思う。</li> <li>・光陽支援学校とは、学校間交流でお互い学び合っている学校であるが、「給食」については、本日、初めて調理室の様子を映像で見て、非常に興味深く、素敵な取り組みを知ることができた。</li> <li>・安心安全な給食の取り組みを保護者に発信することが保護者の安心につながると思う。</li> <li>・光陽支援学校の授業を見せていただくことはあったが、「給食」の詳細な取り組みの動画を見たのは初めてで、大学で学生を教えている立場としても大変、勉強になった。</li> <li>・給食の取り組みについて、段階食の作り方の詳細な工夫はまさに安心安全につながり、</li> </ul>

## 府立光陽支援学校

委員会で確認しながら安全に医療的ケアを行うことができている」については、概ね90%から95%を超える肯定的評価であった。

- また、「児童生徒に使用する言葉・行動と同僚間で使用する言葉・行動の質を高め、人権を尊重した教育活動を行っている」の設問では、肯定的評価が90%で昨年度より5%上がった。

**(2)【実践】授業実践力の向上**

- 保護者への関連設問項目「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと思って受けている」(肯定的評価 89%→95%)、「学校は、生きる力・学ぶ意欲を育てる授業や他者と協力して取り組む授業を実践している」(肯定的評価 95%→97%)、「学校は、ICT機器等を積極的に活用し、教育活動を充実させている」(肯定的評価 72%→75%)について、各項目とも昨年度の肯定的評価より2%から6%アップした。
- 教員への関連設問項目「児童生徒の主体的な学びを大切に、一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業を行っている」(肯定的評価 97%→96%)、「学校行事が児童生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」(肯定的評価 92%→93%)、「授業振り返り会や授業参観週間・交流会を実施し、他の教員と意見交換することで、授業改善・授業力向上に活かすことができている」(肯定的評価 83%→92%)、「ICT 機器等を積極的に活用し、児童生徒のニーズに応じた自立活動等の授業を行っている」(肯定的評価 90%→92%)について、各項目とも肯定的評価を高水準で維持できた。
- 特に「授業振り返り会や授業参観週間・交流会を活用した授業改善・授業力向上」については、肯定的評価が昨年度より9%上がっており、研修の有効性が示された。

**(3)【組織】組織力の向上**

- 保護者への関連設問項目「学校は、教育情報について、提供の努力をしている。(連絡帳・クラス便り・懇談等)」(肯定的評価 93%→98%)、「教職員は、子どもの障がいについてよく理解している」について、93%→98%の肯定的評価であった。また、「教職員間で子どものことについて情報共有等、十分な連携がとれている」については、肯定的評価が一昨年度79%→昨年度88%→今年度91%となり、教員間の連携が評価された。
- 教員への関連設問項目「全校研修会を適宜実施し、教職員の専門性向上に努めている」「校長の学校経営項目」について、90%→96%の肯定的評価であった。
- 「仕事が効率的に実施でき、引継がスムーズに行えるように定期的な整理整頓」(肯定回答 71%→69%→75%)、「働き方改革」(肯定回答 61%→71%→68%)、「各学部・学年や各分掌内の連携・情報伝達」(肯定回答 66%→78%→86%)、「個別の指導計画や個別の教育支援計画の共通理解と活用」(肯定回答 80%→85%→87%)の推移→引き続き課題解決に向けた取り組みが必要である。

**(4)【発信】発信力の向上**

- 保護者への関連設問項目「学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている」「ホームページ等で学校の取り組みを知ることができる」について、81%→84%の肯定的評価であった。しかし、「学校は関係機関(病院・放課後等デイ事業所等)と連携し、必要に応じて主治医面談や訓練見学を実施している」の肯定的評価は69%で、わからない等の回答が27%あったため、周知の必要がある。
- 教員への関連設問項目は、「地域への相談支援体制とセンター的機能の発揮」「ホームページや配付物等での情報発信」について、概ね88%→95%の肯定的評価であった。

**(5)【学校経営推進費支援校】光陽 GoGo プロジェクト**

- 保護者への関連設問項目を新設。「自立活動での導入機器活用と光陽 GoGo フェスティバルでの発信」と「SDGs プレーヤー・SDGs 拠点校としての2年目の実践」について、肯定的評価が、81%と84%で、目標としていた肯定的評価70%以上を達成できた。
- 教員への関連設問項目も新設。「自立活動での導入機器活用と光陽 GoGo フェスティバルでの発信を含め2年目の実践」と「SDGs プレーヤーとして企業と「届けよう服のチカラプロジェクト」で協働した2年目の授業実践」について、肯定的評価が、96%と98%で、目標としていた肯定的評価70%以上を達成できた。
- 病弱部門の保護者・教員の数値は、短期間の入院の児童生徒も含まれるため、個別に工夫改善の対応を行う。

\* 児童生徒の結果については、どの項目も概ね良好な結果が得られた。個別に対応が必要と思われる項目結果については、対応済。

\* 今後、以上の「学校教育自己診断アンケート」の結果を踏まえて、全教職員で分析・検討を行い、次年度の学校経営計画へ活かしていく。

**【分析・検討状況】(3月職員会議でまとめ)**

- 教員結果で、肯定的な回答の数値を引き上げたい項目について、以下の2点を重点に分析・検討する。

(分掌部会・学部会・グループ会議等で課題改善に向けて意見を出し合う。)

**(1)「安心安全な学校」の根幹となる項目→「人権尊重」の項目**

【項目2】「児童生徒に使用する言葉・行動と同僚間で使用する言葉・行動の質を高め、人権を尊重した教育活動を行っている」

**(2)「組織力の向上」の要となる項目→「仕事の効率化・引継」「働き方改革」の項目**

【項目16】「仕事を効率的に実施し、引継もスムーズに行うための整理整頓」

【項目17】「仕事の時間を区切る・仕事のスリム化・仕事の仕方を変えるために工夫・改善に取り組んでいる」

- 来年度に向けて

**(1)「安心安全な学校」の根幹となる項目→「人権尊重」の項目**

- 教職員の人権研修として、外部講師を招聘し、取組の重点3年目のまとめを行う。
- 学年会・学部会を利用して人権に関する振り返りを定期的に行う。課題に気づいた場合はすぐに対応を行い、人権尊重の好事例は、共有して実践に活かす。  
→各学部主事を中心に振り返りの頻度や方法や内容を検討・提示。

**(2)「組織力の向上」の要となる項目→「仕事の効率化・引継」「働き方改革」の項目**

- 会議については、「改善案」で多くの有効な意見が集約された。会議効率化に向けて出された工夫を積極的に活用して、効率化を図る。水曜日は、可能な限りノー会議デーに設定し、授業準備等に活用する。  
→各会議のチーフ中心に発信・実施。
- 研修については、研修時間や頻度・内容について改良する。  
→研究部中心に検討・提示。
- 教材教具については、keynote や power point の保管方法・保管場所・iPad の授業活用方法の検討を行う。  
→ICT 教育部中心に検討・提示

素晴らしいと感じた。ぜひ、関係者だけでなく、センター的機能としても発信の仕方を工夫して、地域にも発信してほしい。

- 「学校経営計画」4つの柱の2番「組織力の向上」と3番「発信力の向上」に関連して、光陽支援学校は、府立支援学校の中で唯一の肢体不自由部門と病弱部門の併置校なので、2つの部門の連携が組織力の向上につながっていることがあれば、光陽オリジナルの実践として発信してもよいのではないかと。

→肢体不自由部門と病弱部門、どちらも命に向き合う教育。お互いが高め合えるよう意識をしながら進めていきたい。授業力向上の取り組みとして、「授業振り返り研修会」「授業参観週間・交流会」を肢体不自由部門では実施しているが、その取り組みを病弱部でも実施したいとの意見が実現して、今年度は病弱部の小・中学部・分教室間で、オンラインも活用しながら授業を参観し合うことが実現した。

- 「光陽 GoGo フェスティバル」の実施計画や各ブースの準備状況の説明を聞き、組織として一丸となって取り組んでおられることが伝わってきた。ぜひ、「光陽 GoGo フェスティバル」取り組みを有効に発信してほしい。
- センター的機能の視点として、地域小学校・中学校への「自立活動」に関する支援、高等学校への支援も必要になってくると思うので、ぜひその視点でも使命を発揮してほしい。  
→センター的機能の一環として、一昨年度から「夏季公開オンデマンド研修」を実施している。「起立性障がいについて」「病弱教育について」「授業前にやっておこう～レッツ！身体ほぐし！～」「姿勢を整え学習しよう」「GIGA スクール等 iPad について」「アンドロイドタブレットでダウンロードできるアプリの活用例・実践例」を配信し、地域から高評価を得た。今後も、自立活動の視点を意識してセンター的機能を発揮していきたい。

**【第2回学校運営協議会：令和4年12月19日(月)実施】**

《委員より》

- 肢体不自由部門と病弱部門の「子ども笑顔モニタ校」としての ICT を活用した実践発表を見せていただき、地域に比べると光陽支援はICTの取り組みがずいぶん進んでおり、成果がよくわかった。地域の学校では、オンラインでつなぐことに対して個人情報の観点や漠然とした不安から、なかなか取り組みが進まないこともある。うまくいった事例をどんどん地域小中学校へ紹介して行ってほしい。
- 動画を見て、多彩、多様な実践に取り組まれていることがよく分かった。一つひとつ、丁寧に、組織として取り組まれていることもよい点である。現在、働き方改革の話題によくあがるが、「支援教育の魅力」や「やりがい」の発信なくしては、働き方改革もよい方向には進んでいかないと感じている。「支援教育の魅力」を発信し、適切に働き方改革としての業務改善が連動することで、支援教育が活性化して全体的な向上につながっていく。魅力をどんどん発信して行ってほしい。
- 教員志望の学生が少なくなっている今、光陽支援の取り組みの話は、学生に知ってもらいたい実践と感じた。
- 「光陽 GoGo フェスティバル」に参加した。こういう機会が増えて、たくさんの方々に本校の様子をみてもらえたらと願う。知ってもらうことで、子どもに対する関わり方の幅が広がるように思う。子どもに関わってもらっている医療現場の医師や看護師の皆さんは、病院の中で子どもの姿しか見られないので、学校での姿も知っていただくことは大変、有効だと思う。「光陽 GoGo フェスティバル」を地域や関係者の皆さんや支援者の皆さんに広めていただきたい。
- 「移動式スパイダー」の実践動画を見て、子どもたちが「今までできなかったことができるようになる姿」に驚きと感動を覚えた。できたときの子どもの表情が素敵である。子どもの可能性が広がり、子ども自身の「あんなこともこんなこともやってみたい！」という成長の原動力になっている。
- 「移動式スパイダー」の実践で成果と共に、この指導が、「自立活動」として27項目のどこをねらって行っているのかをしっかりと確認して、今後の準備及び振り返りに活かしてほしい。
- 「子ども笑顔モニタ校」としての「アバターロボット」や「メタバース」の取り組み実践の発表動画をみせていただき、全国10校の支援学校と共同研究者のつながりがわかった。

**【第3回学校運営協議会：令和5年2月21日(火)実施】**

《委員より》

- リフトは、安心安全に移乗するために「児童生徒にとっても」「教員にとっても」必要なものだと感じた。予算をどう確保するかは課題はあるが、大阪府教育庁とも連携を取って、ぜひ進めてほしい。リフト1台の金額は高額であるが、児童生徒に有効なものでもあり、もし腰痛で教員が休んで講師を雇用することを考えると、結果的には、購入した方がよい。
- 働き方改革等で、保護者からの欠席連絡をフォーム作成ツールを活用する取り組みを始めることは、とてもよいことだと思う。大阪市の小学校でも朝の欠席連絡はアプリを使って、全校実施ができていて、保護者からも好評である。
- 「子ども笑顔モニタ校」としての病弱部の実践報告を見て、アバターロボットの活用のすばらしさを感じた。入院している子どもと原籍校の子どもをつなぐツールとして、有効。子ども自身が前向きに「入院していたからこそ経験できたことがある」と感じたことに感銘を受けた。メタバースの発表が楽しみである。
- 「光陽グランドデザイン」のホームページでの発表が楽しみである。
- 日頃から子どもたちのことをよく考えていただいていると感じている。リフトをもっと利用してもらえたらと思う。保護者としても、もう少しコンパクトになって、家でも使えるようになればいいと感じた。
- 教育課程を認識して、教員一人ひとりが語れるようになること、説明できるようになることが大切。これと並行して「授業改善」を進めていくことが大切。
- 意識改革をして「働き方改革」に繋げていく。教員の健康を守っていくことが大切。リフトの移乗の間に、教育活動としてのコミュニケーションがどう生まれてくるのか。教育活動としてのリフトの活用を進めていくことができればよい。
- 子どもたちからの発信は、とても大切。光陽支援の発信力はすばらしく、教職員が発信していることで、子どもたちの発信モデルになる。
- メタバースのチャレンジに期待している。不登校の子どもたちにも活用できると思う。
- 特別な教育課程をどのように位置付けるか、小中学校において課題となっている。センター的機能の観点から自立活動について支援学校の教育課程を発信していただきたい。

## 府立光陽支援学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値]	自己評価
【1】 安全安心力の向上 【安全安心な校内体制構築の実現】	(1) 人権尊重の教育推進	(1) ・ 教職員の人権研修として、「アサーティブコミュニケーション」等、健全な同僚性構築に必要な様々なコミュニケーションスキルを3年計画で学ぶ。(2年めの取り組み) ・ 児童生徒に使用する「ことば・行動」と同僚間で使用する「ことば・行動」の質を高める。	(1) ・ 全校研修1回で外部講師招聘。 ・ 毎月の学年会等を活用して、「ことば・行動」について振り返り、気づきを発信し共有する。 ・ 学期ごとに振り返り事例をまとめて実践に活かす。	(1) ⇒ 【○】 ・ 「人権尊重スキルとしてのアサーティブコミュニケーションを学ぼう」との内容で外部講師による「人権研修」を実施済。ワークを行いながら「アサーティブコミュニケーションスキル」を学べた。 ・ 全ての教職員が「自分事」として「人権尊重のことば・行動」の振り返りを行い、事例をまとめて学期ごとに学会等でも共有した。
	(2) 心身の健康を守る教育の推進	(2) ・ 感染症対策を定期的に見直し、感染拡大を防止する。 ・ 児童生徒のいつもと違う姿は、報告・連絡・相談の徹底。ヒヤリハット・インシデント等の報告と対応の迅速化。 ・ 安全安心な医療的ケア実施体制構築に向けて、医師と連携を行い、巡回指導・教職員研修を実施する。 ・ 高度な医療的ケアが増える中、定期的な緊急対応シミュレーションの実施。(バリエーションを増やす)	(2) ・ 感染症マニュアルのアップデート。 ・ インシデント分析と症例検討。(学校医からの助言・年3回) ・ 医師による巡回指導3回・全校研修を1回実施。 ・ 緊急対応シミュレーション年3回。	(2) ⇒ 【○】 ・ 感染症マニュアルは12月に更新し、第8版運用中。 ・ ヒヤリハット・インシデント・アクシデント報告と分析検討は、医療的ケア安全委員会にて学校医から助言を受け、活用。 ・ 人工呼吸器使用の児童生徒のプール指導について医師による巡回指導を6月実施済。学校医による巡回4回。3学期にも医師の巡回3回実施。3学期に「けいれん発作関連」「医療的ケア関連」のオンデマンド全校研修を実施。 ・ 「緊急対応シミュレーション」は、設定バリエーションを増やし各学部2回合計6回実施済。
	(3) 危機管理体制の強化	(3) ・ 「大災害時の対応マニュアル」の登下校バージョンについて「通学バス見守りソリューションシステム」と連動させる。 ・ 大災害時を想定した教職員用訓練の実施。 ・ 地域関係者と連携し、避難所開設時の体制について、感染症対策も含めて、確認・調整を進める。 ・ 「光陽支援業務継続計画(BCP)」を策定し、実効性のあるものに精度を高める。	(3) ・ 「通学バス見守りソリューションシステム」運用と課題の整理。 ・ 「大災害発生」を想定した模擬訓練(関係機関含)実施1回。 ・ 「光陽安心メール」にて大災害時の回答訓練を7月に実施。 ・ 地域関係者との連携会議年3回。	(3) ⇒ 【○】 ・ 「見守りソリューションシステム」では、一時的なタイムラグや不具合等が起こったが、都度対応し、良好に運用できた。新年度に向けての設定内容の変更が課題。登下校時に大災害が起こった場合の避難場所をソリューションシステムに反映する為、説明会に参加し関係機関にて検討し対応した。 ・ 「大災害発生」を想定した模擬訓練(消防署と連携)を1月に実施。11月には発電機の点検及び使用訓練も実施済。 ・ 「光陽支援安心メール」での回答訓練を7月に実施済。 ・ 地域関係者との防災会議の参加6回済。
【2】 授業実践力の向上 【質の高い授業実践の実現】	(1) 教育課程の再編成	(1) ・ R3年度に確定した「めざす児童生徒像」「めざす教職員像」を受け、今年度は「各学部教育目標」のつながりについて協議を行う。「教育課程検討委員会」等が中心となり、全教職員で「光陽支援のグランドデザイン」を作成。 ・ 「教育課程」に基づいた「年間計画(シラバス)」について、精査し、学部内・学部間で共有を行う。	(1) ・ 「光陽支援のグランドデザイン」の「各学部教育目標のつながり」について完成。(年度内) ・ 「年間計画」のデータベース化と「観点別評価」の具体化。	(1) ⇒ 【○】 ・ 「光陽支援のグランドデザイン」では、各学部のつながりについてのワークを12月に実施。「育てたい力」の項目を完成した。 ・ 昨年度データベース化した「年間計画(シラバス)」をより活用するために、学部ごとに研修会を実施した。単元の目標、内容、評価規準の設定についてグループごとに演習し、理解を深めることができた。個別の指導計画の評価欄を観点別評価で記入できるように改定した。
	(2) 質の高い授業実践	(2) ・ 「授業振り返り研修会」「教職員の授業参観週間・交流会」を実施し、学びを「明日からの授業」に活用する。 ・ 授業「光陽いいとこ集め」を蓄積する。 ・ 10年経験者研修等を活用した「公開研究授業」を実施し、ミドルリーダーとしての授業改善を進める。 ・ 質の高い授業作りのため、全校研修会で学び、授業改善につなげる。 ・ 1人1台端末の導入を受けて、「アクションプラン」を作成し、ICTを効果的に活用した授業実践を累積する。	(2) ・ 「授業振り返り研修会」1回と「授業参観週間等」1回の実施。 ・ 「光陽いいとこ集め」を継続し、首席から各学部会にて共有。 ・ 「公開研究授業」3回以上実施 ・ 外部講師招聘による「全校研修会」1回実施。 ・ 「ICT実践報告会」(4事例)	(2) ⇒ 【○】 ・ 「主体的な学びを大切に授業づくり」という研究テーマに沿った「授業振り返り研修会」を各学部で2回実施済。1学期に研修会を設け、各グループで課題や改善点を共有。2学期末には、その課題や改善点を意識した授業の振り返りを行った。また、「授業参観週間・交流会」は、2学期に実施済。 ・ 「光陽いいとこ集め」で授業の工夫を全学部の部会で共有済。 ・ 「10年経験者研修」等の公開研究授業を5回実施済。 ・ 7月に外部講師を招聘し「教材・教具」について「全校研修会」を実施。グループワークでは、日頃使用している教材・教具やアプリの紹介や活用事例等を話し合い、記録用紙を掲示して教職員間で共有。 ・ ICT機器の活用好事例を1月実践報告会で4事例共有済。
	(3) 自立活動の充実	(3) ・ 「光陽 GoGo プロジェクト」自立活動の実践で、2年めの取り組みを進める。具体的には、スパイダーや移動支援機器・スヌーズレン等の導入機器を積極的に活用し、児童生徒が自ら外界へ関わる力を伸ばし、社会へ参画する機会を増やす。	(3) ・ 「スパイダー報告会」2回実施。実践の好事例を共有。 ・ 「光陽 GoGo プロジェクト」自立活動の実践で学校教育自己診断の関連項目教職員・保護者とも肯定的評価70%以上。	(3) ⇒ 【○】 ・ 「光陽 GoGo プロジェクト」2年目の実践として、「スヌーズレン」「ベビーロコ」「スパイダー」等の活用を深め、「スパイダー報告会」を12月と2月に実施し、「移動式スパイダー」の好事例等を2月の大阪肢体不自由自立活動研究会で発表。 ・ 「光陽 GoGo フェスティバル」で保護者や地域学校等へ実践発信。 ・ 自己診断関連項目 保護者81%・教職員96%
【3】 組織力の向上 【質の高い教職員集団の実現】	(1) 教職員の専門性向上	(1) ・ 教職員の専門性向上に必要な研修として、全校研修会以外に全国の支援学校や研究協議会が開催する「オンライン研修会」を積極的に活用する。 ・ 学年・学部内での日常的な次世代育成継承システム(OJT)を充実し、全教職員が、「内発的な問題解決発想」を持ち「なぜ」「何のために」のすり合わせを行っていく。(学部研修会や事例検討会の充実と活用)	(1) ・ 「オンライン研修」が受講しやすい環境調整。 ・ ノー会議デイ等の有効活用。 ・ ライブビューイングの設定。 ・ 学年・学部での事例検討会を年間4事例実施。	(1) ⇒ 【○】 ・ 研究部がけん引役となり、全国肢体不自由教育研究協議会の「オンデマンド配信」について、「パブリックビューイング」を企画し、様々な分科会やポスター発表を12月視聴した。(ノー会議デイの有効活用含む)。 ・ 全国及び近畿地区の病弱教育研究協議会等のオンデマンド研修も積極的に視聴し、専門性向上に活用できた。 ・ 学部研修会で各学部のニーズに応じた研修を企画し、実践に活かせる事例を4事例学んだ。
	(2) 引継システムの推進	(2) ・ 定期的な「整理整頓」を行い、校務のスリム化を促進する。5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)+S(支援)の実行。 ・ 各学部・分掌・委員会等で電子データの整理を推進し、効率的な授業準備や引継等に有効活用する。	(2) ・ 産業医による校内の「5S+S」の状況評価。(年3回実施) ・ 各学部・分掌で工夫・実行した内容を職員会議等で共有。	(2) ⇒ 【○】 ・ 産業医による学期に1回(年3回)の校内巡視を実施。「5S+S」の視点で各学部・分掌が積極的に気になる教室等の整理整頓を工夫・協力して進めることができた。 ・ 各分掌・各学部がスリム化のために実行した内容(データの整理方法等)を共有し、更なる「5S+S」を推進した。
	(3) 教職員働き方改革推進	(3) ・ 教職員が心身ともに健康な状態で児童生徒に向き合い指導・支援するために①「仕事の時間を区切る」②「仕事のスリム化を行う」③「仕事の仕方を変える」の3点で整理をしながら、全ての教職員が自らの責任を果たし、「働きやすい職場環境作り」を促進する。(毎日19時施錠継続) ・ 教職員の腰痛予防について専門機関と連携し、研修・相談体制を継続する。(始業体操のバージョンアップ) ・ 教職員の腰痛対策について「子どもにとって・教職員にとって安心安全な移乗支援」プロジェクト～多職種チームでの実践～に取り組む。	(3) ・ 整理整頓できる時間の確保。(安全衛生委員会に合わせて設定) ・ 腰痛予防対策の協働実践について、専門機関とともに報告書を作成し、校内外で発信する。 ・ 「子どもにとって・教職員にとって安心安全な移乗支援」プロジェクト～多職種チームでの実践～について、学校運営協議会で、計画・進捗を3回報告。	(3) ⇒ 【○】 ・ 安全衛生委員会にて毎月、時間外勤務の状況を確認。45時間以上の延べ人数は、昨年度と比較して50%減少できた。 ・ 専門機関と協働して、腰痛予防研修を1回、筋力や柔軟性等を測定する腰痛検診を2回実施。毎日の始業体操をバージョンアップして継続実施。腰痛予防の取組の報告書を作成した。 ・ 「安心安全な移乗支援」プロジェクトとして、「リフト3台」を導入。アシストスーツやマッスルスーツをレンタルして検証。多職種チームで定期的にオンライン会議実施。専門家の学校訪問調査5日間実施。巡回指導3回実施済。 ・ 高等部自立活動室の教室環境を整えたことで、リフト活用事例ができ、12月に各部会で共有。学校運営協議会で導入の理由や活用場面の動画・課題も含めて3回報告。
【4】 発信力の向上 【多様性社会の推進と実現】	(1) 交流および共同学習の充実	(1) ・ 「学校間交流」「居住地校交流」について、実践を充実。「出前授業」を行い、交流後の「相互の学びや気づき」を校内外に発信する。 ・ 「SDGsの視点や取組み」を交流の中でも活用する。 ・ 授業で作成した焼き物(SDGs 植木鉢等)を交流校に渡し、SDGsプレーヤーとして学んだことを伝える。相手校のSDGsの取り組みを聞く機会も設定する。	(1) ・ 「対面交流」「オンライン交流」を併用して、学びを深める。 ・ SDGsプレーヤーとして交流校へ作品を渡し、発表の機会を作る。(小学部・中学部・高等部各1事例)	(1) ⇒ 【○】 ・ 「学校間交流」は、4校18回実施。(4校で出前授業を実施)。内訳:小学部2校10回。中学部1校3回。高等部1校5回。 ・ 「居住地校交流」は、15校33回実施。(14校で出前授業を実施)。内訳:小学部11校20回。中学部4校13回。 ・ 今年度は、対面交流を中心に実施することができている。オンライン交流も併用しながら、交流回数を積み重ね、互いの学びを深めることができている。 ・ SDGsプレーヤーとして、交流校へ「手作り植木鉢の贈呈」「服の回収呼びかけ」協働での七宝焼き作りを実施。各1事例済。
	(2) 地域に開かれた学校作り	(2) ・ 「授業実践・教職員研修」について積極的に地域へ公開(オンライン研修等)するとともに、コーディネーターによる地域支援も含めたセンター的機能を発揮する。 ・ 地域の方々とつながる工夫を行い、「SDGsの視点や取組み」を発信する中で、自分たちの使命を発揮する。「届け服の子カラプロジェクト」2年めの取り組み実施。	(2) ・ 夏季公開オンデマンド研修を実施し、参加者の満足度アンケートの肯定的評価70%。 ・ 「光陽 GoGo プロジェクト」SDGsの取組みで学校教育自己診断の関連項目教職員・保護者とも肯定的評価70%以上。	(2) ⇒ 【◎】 ・ 「夏季公開講座」として3講座を地域小中学校園へオンライン配信。50校・100名の申し込みがあり、アンケートでも肯定的評価75%達成。 ・ 「光陽 GoGo フェスティバル」を7月に2日間開催。体験型ブースを公開し、合計111名参加。アンケートでは参加者の満足度100%の高評価。 ・ 「光陽 GoGo プロジェクト」の一環として、「届けよう服の子カラプロジェクト」に参加し、PTAや交流校とも協働し、966枚の服を海外へ送ることができた。2年間の取組が評価され、「こころの再生」府民運動SDGs部門で表彰校に選出された。 ・ 自己診断関連項目 保護者84%・教職員98%
	(3) 実践の積極的発信	(3) ・ 教職員は、自分たちの実践のまとめについて、「わかりやすく伝える力」(プレゼンテーションスキルや言葉の精選等)を強化し、校内外で発表の機会を作り、発信する。 ・ ホームページ等の充実を図り、保護者や地域の方々・関係機関への「学校の見える化」を図る。 ・ 保護者へは、「光陽安心メール」も有効活用する。	(3) ・ 研究会等校内外で実践発信。(出版物・冊子等含む) ・ ホームページの行事毎の定期的な更新。 ・ 「光陽安心メール」で、「光陽 GoGo 通信」等を年10回発信。	(3) ⇒ 【◎】 ・ 「子ども笑顔モニター校」として、アバターロボットを活用した実践をオンラインで2事例発表。アイデアコンテストで入賞。 ・ ホームページの更新は、行事毎に各教職員が責任を持って実行できた。 ・ 「光陽安心メール」で「光陽 GoGo 通信」等を10回発信。